



信太 和子
(大河・生々・みどりの会連合)

(仮称)イオン新能代ショッピングセンター

質 イオンは「大型店から小型店に投資をシフトする」と経営戦略を変更した。だが、市長は出店を約束した。来春発表の出店スケジュールでイオンと打ち合わせをしたか。

答 9月4日、イオンリテール株式会社東北開発部の責任者とお会いしたあとは、イオン側と打ち合わせは行っていない。

市の事業仕分け

質 国の事業仕分けが注目を浴び、支持を得た。そもそも実施と実績では地方自治体が早い。新時代を切り開く新観点がある。市として支障もなく実施するのはどうか。

答 事業仕分けは予算編成が目に見える形で進められ、非常に高い評価を得ている。財政が厳しく、思い切った事業の縮小、廃止も考える必要がある現状では、取り組みについて検討する意義は大きい。現在総合計画のまちづくり評価を実施しており、しばらくはこれを継続しながら、事業仕分けについて研究していきたい。

その他の質問事項

- ・22年度予算編成(市長選など)
- ・リサイクルポート
- ・会計検査院指摘の不適切処理



飯坂 誠悦
(創風会)

能代港リサイクルポート

質 港に船が入ってこない現実をどのように認識しているのか。経済の低迷ばかりが理由か。移入だけでなく移出も考えなければならぬが、港の利活用について考えはあるのか。

答 現在の世界的な経済情勢で貨物の動きも鈍くなっている。移入については、建設中の循環資源取扱支援施設の活用のほか、本市及び後背地の特色ある新たな貨物の掘り起こしにより、能代港の利活用促進につなげたいと考えている。また、能代港利活用促進に向けた新たなビジョン作成の検討が必要と考えている。

藤山踏切拡幅と市道改良事業

質 過去の立体交差の計画と計画中の平面交差との整合性はいかに。この踏切拡幅は地域住民も大きな関心を持って見守っている。具体的な今後のスケジュールはどうなるのか。

答 昭和49年に立体交差化すべき踏切として国の指定を受けていた。その後交通量の減少等からJR東日本秋田支社に平面交差の踏切改良を協議していたが今年度合意した。今年度は改良事業に係る予定区間の測量や設計を行い、22年度に地域活力基盤創造交付金を要望、23年度に着工、完成へと進めていきたい。指定変更については、県と連携し国へ働きかけていきたい。

その他の質問事項

- ・グリーンツーリズムの現状と農山漁村地域振興の課題



小林 秀彦
(日本共産党)

農業振興策

質 来年の転作助成について、米粉、飼料米については、10アール当たり8万円の助成を検討しているが、どの農家も取り組んでいける内容となっているのか。

答 来年度より従来の産地確立交付金等の転作助成金が水田利活用自給率向上事業へと変更となり、新規需要米に対し助成が行われる予定。農業者の取り組み内容についてはまだ詳細が示されていないが、種子については、全農あきたが秋田63号という多収量品種を全県で約700ヘクタール分確保していると伺っている。

菜の花栽培で自然循環型の社会を

質 あきた菜の花ネットワークでは能代港の木材工業団地臨海部に約6ヘクタールに菜種を播種したが、循環型社会形成のうえで「能代港菜の花まつり」を計画したらどうか。

答 「能代港菜の花まつり」等、イベントをとおり、循環型社会の形成や地域産業の展開も図りたいと考えているが、その栽培場所が民有地で、栽培はNPO法人あきた菜の花ネットワークが行ったことから、関係者の御理解と御協力が必要不可欠と考えている。今後は関係団体、規模、予算措置等、協議していきたい。

その他の質問事項

- ・ヒブワクチンの公費による助成
- ・雇用対策と雇用の創出
- ・イオン出店とまちづくり